

《小布施町》 小布施町ボランティアセンター

〔センターの基本事項〕

所在地	〒381-0201 上高井郡小布施町大字小布施860-1			
電話 FAX	026-242-6665	026-242-6696		
電子メール	o-shakyo@stvnet.home.ne.jp			
HPアドレス	http://members.stvnet.home.ne.jp/o-shakyo/			
職員数	正規	1名	嘱託	—
	臨時	—	その他	—
開所日と時間	平日 8:30～17:30 土日祝を除く			
情報誌	町報・社協報（ボラセンページ有）・ボランティア便り「ぬくもりとやさしさをあなたに」			
来所者数	町報：毎月・社協報：年4回・便り：主に奇数月発行 年間 約4000名			



〔センターの運営方針・指針等〕

--

〔センターの拠点整備〕

活動場所の提供	<input type="radio"/>	多目的ホール、和室2室、交流室、調理実習室、サークル室、中ホール（施設自体は町所有） 費用：毎年（前年度のボランティア活動実績に応じて4ランクの減免がある） 対象者：ボランティア登録を受けた団体または個人（会場関係は事前予約必要）
フリースペースの設置	<input type="radio"/>	六角テーブル、長作業テーブル2台、印刷機、IHコンロ、やかん、チラシ、情報誌、掲示板など
資機材等の貸出	<input type="radio"/>	印刷機—無料（用紙は持参）、対象者：町内活動団体（自治体・体育協会など）・登録ボランティア団体・個人 ノートPC・ハンディマイク・紙芝居などの道具—無料、対象者：登録ボランティア団体・個人
福祉体験器具等の貸出	<input type="radio"/>	高齢者疑似体験セット 無料、対象者：希望者
登録グループの専用ポストの設置	—	
情報掲示板・チラシ提供スペースの設置	<input type="radio"/>	

〔ボランティアセンター運営委員会〕

組織の有無	無	規約	無
名称	—		
委員構成	—		
事業への関わり	—		
工夫点	—		
課題点	—		

〔ボランティア連絡協議会〕

組織の有無	無	規約	無
名称	—		
協議会構成	—		
工夫点	—		
課題点	—		

〔財源〕

人件費	独自財源	共同募金	委託料・補助金	民間助成金	その他
	—	—	○	—	—
	—	—	○	—	町委託金
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—

事業費	独自財源	共同募金	委託料・補助金	民間助成金	その他
	○	—	—	—	—
	—	—	○	—	—
	—	—	○	—	町委託金（福祉グループ）
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—

〔業務及び事業について〕

ボランティア活動支援

相談・コーディネート	○	委
ボランティア保険加入事務	○	委
ボランティア・NPOへの助成	○	委
各種情報提供	○	委

広報・啓発

ボランティア広報誌・情報誌の発行	○	独
ホームページの運営	○	委

相互交流・ネットワークづくり

ボランティアの集い	○	委
H21年度 交流会 内容：ポスターセッション、アイスブレイキング、全体フォーラム 講師：内山二郎氏 H22年度 交流会 3月9日実施予定 内容：ふり返りムービー鑑賞、健康運動指導士による交流レクリエーション、意見交換カフェ 運営：ボランティアセンター職員、ボラセンサポーター		
ふれあい祭り等の開催	○	委
登録ボランティアグループや周辺の施設、中学校、他協力団体によるバザーや模擬店など各コーナーを設けたり、演奏による発表ステージ 運営：協力団体による実行委員会		

ボランティア講座

未経験者向け	○	委
H22年度 「ボランティアライフへの招待」講師：内山二郎氏（ミニ講義、ワークシートによる演習） 「地域づくりとボランティア」講師：まちづくり委員会 部会長（講演会）、昼食交流会		
活動者向け	○	委
<small> H21年度 第1回「ボランティアで生きか上手」(講義) 講師：町内幸住職 第2回「福祉でコミュニケーション」(講義・演習) 講師：ホールファミリーケア協会事務局長 第3回「町の福祉、認知症について理解しよう」(講義) 講師：町在宅介護支援センター所長・交流委員会 講師：町安養士、恵いす体験、高齢者疑似体験 講師：町社協職員 第4回「自分に何が出来るか見つめよう」(講義・演習) 講師：長野市ボランティアセンター 主幹 第5回「高齢・高齢・ボランティア」(講義) 講師：町安養士 第6回「ボランティア活動を通して感じたことをみんなで話そう」(講義・演習) 講師：長野市ボランティアセンター職員 </small>		

その他の事業

町内一斉打ち水大作戦 (H21, H22年度)	委
町内の施設等に協力依頼し、一斉に打ち水を行う	
手作りバケツde打ち水をしよう!	委
町子育て支援センター職員に教わり、空き牛乳パックや空ペットボトルを使ってオリジナルのバケツを作り、打ち水をする	
夏休みミニ講座 (H21年度)	委
・お話の会 講師：須高子ども劇場「おはなしクレヨン」の皆さん ・もの作り講座「さおり織の布を使ったお花のブローチ作り」講師：登録個人ボランティア	
夏休みミニ講座 (H22年度)	委
・手作りおやつ作り「フォカッチャ作り」講師：登録個人ボランティア	

福祉教育・ボランティア学習

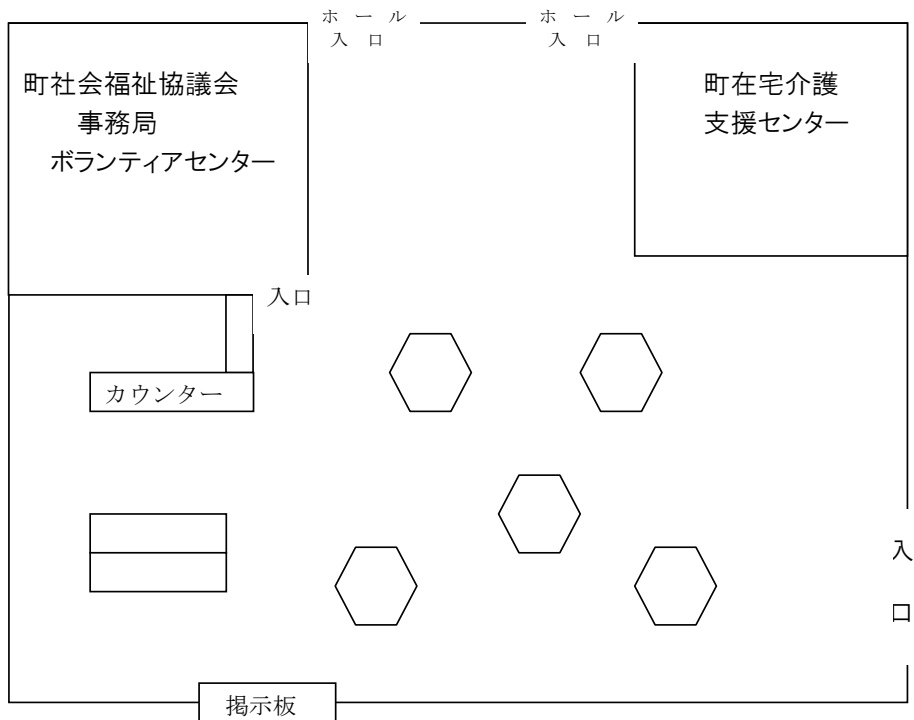
小中学生対象	○	委	
H21年度「夏休みちよいボラ体験」 H22年度「夏休み体験ボラ」 【午前】学びの時間 ・演義「高齢者に寄り添うとは?」「～高齢者とは?～高齢者の気持ちに触れてみよう」 ・車いす体験、高齢者疑似体験 【午後】ボラ体験 デイサービスの夏祭りにて、午前中で学んだことをいかしてボラ体験			
高校生対象	—	—	
大学・短大・専門学校生対象	—	—	
教員・学校関係者対象	—	—	
一般対象	—	—	
福祉教育協力校への助成事業	○	委	
総 額	60,000円	1校あたり	約30,000円
小 学 校	1校	中 学 校	1校
高等学校	—	そ の 他	—

ミニ講座 (H21年度)	委
・色遊び「コラージュペインティング」 講師：登録個人ボランティア ・もの作り講座「雛人形づくり」 講師：登録個人ボランティア	
ミニ講座 (H22年度)	委
・もの作り講座「牛乳パックでハガキ作り」 講師：登録個人ボランティア ・もの作り講座「うさぎのポーチづくり」 講師：登録個人ボランティア	

〔事業計画・センター運営等について〕

○事業計画について 毎年度の事業計画について、どのように計画を立案していますか？	担当部署・担当職員間で事業計画を立案している。
○センターにおける中長期計画について 独自の中長期計画・アクションプラン等を作成していますか？	—
○アドバイザー等について センターの運営や事業実施に関して、アドバイザー等の助言者はいますか？	—
○社協VC以外の中間支援機関について 社協が運営するVCとは別に、他団体が運営する中間支援機関が地域内にありますか？	—
○連携するNPOや関係機関について VCの事業・運営において連携・協働しているNPOや関係機関等がありますか？	
連携・協働先	連携・協働内容
—	—
—	—
—	—
○センターの強みと弱みについて	
<p>《強み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々な企画の中からボランティアに結びつけることができる ・住民に近く、情報を吸収できる ・多方面の分野の事業展開ができる 	<p>《弱み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知度が低く、ボランティアのイメージが敷居が高くしているのか近寄りがたいイメージ

○VC見取り図



<p>○他市町村社協ボランティアセンターについて センター運営や事業実施に関して、他市町村社協VCに聞いてみたいことや知りたいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会が必要か？ ・センターのPR方法は？（たとえばキャラクターや歌など） ・事業実施のポイント、時期など ・地域及び住民との関わり方

ボランティアセンターの重点事業について

事業名	中学生対象 夏休みボラ体験
目的	中学生の時期に高齢者や障がい者の状態や気持ちを理解し、福祉ボランティア活動を体験することにより関心を深めることを目的とする。
開催頻度	毎年、中学生の夏休み中に1日
内容	午前中：高齢者についての講義 車いす体験 高齢者疑似体験 午 後：町デイサービスセンターの夏祭りでボラ体験
対象者	中学生
企画のポイント 事業成果	地域での活動などに参加するきっかけづくり
参加者の声や その後の動き など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義に参加してからの夏祭りボラ体験だったので、お年寄りとうまく接しられたと思う。 ・ お年寄りと接する機会がなかったので、いい体験になった。 ・ ご老人と触れ合えて、人の接し方を考えた。

事業の様子



事業名	みなさんよつといでサロン ミニ講座
目的	どなたでも自由に立ち寄り、参加できる企画・内容やボランティアさんがお持ちの資格や特技を地域の皆さんに披露する自己実現の場を目的とする。
開催頻度	年に3～4回
内容	ボランティアさんの特技を生かした、もの作りやおやつ作り 過去：雛人形作り、コサージュ作り、コラージュペインティング、 フォカッチャ作り、牛乳パックでハガキ作りなど
対象者	どなたでも
企画のポイント 事業成果	ボランティアさんの特技を披露する場を提供することで、活動の活性化につながる
参加者の声や その後の動き など	<ul style="list-style-type: none"> ・またやってもらいたい ・参加して皆さんを話しながら、ものを作る事が楽しいです

事業の様子

